



なぞって練習 [行書体]

ほかの後者は寺へ歸して惟光だけをお供につれて、その山荘をのぞくとこの垣根のすぐ前になっている西向きの座敷に持仏を置いてお勤めをする尼がいた。簾を少し上げて、その時に仏前へ花が供えられた。室の中央の柱に近くすわって、脇息の上に経巻を置いて、病苦のあるふうでそれを讀む尼は、ただの尼とは見えない。

■ 参考

※惟光【これみつ】

※持仏【じぶつ】

※簾【すだれ】

※脇息【ききせき】

(青空文庫のフリガナより)